

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000413		
法人名	グリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ江別東光館		
所在地	北海道江別市東光町33番地6		
自己評価作成日	令和3年10月16日	評価結果市町村受理日	令和3年11月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0191000413-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設内にひきこもらないように、季節を感じられるよう外出を多く取り入れています。 ・出来る事は利用者と一緒にいき、食事の下ごしらえや後片付け等利用者中心に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームたんぼぼ江別東光館は、JR江別駅からほど近い閑静な住宅街にある開設4年目の事業所です。一部2階の平屋建てで、1階玄関ホールを中心に2つのユニットがあり、事業所内を利用者が自由に行き来しています。今年に入り、職員がこれまでの理念と方針を再検討し、新しくミッションとビジョンにまとめました。今年度は運営推進会議を书面で行い、町内会役員や行政、そして家族全員に配布し、事業所の現状を報告し意見を求めています。事業所に隣接する公園は、利用者のよい散歩コースとなっており、地域住民と触れ合う機会を創出しています。家族には毎月の通信と個別の生活報告で詳しく様子を伝え、また、リモートでの面会の準備や窓越しでの面会時に内線電話を使うなど、家族との関係の維持に努めています。今年度は屋外活動の代わりに、職員発案でミニ運動会を行うなど、利用者のストレスにも配慮しています。焼き鳥やラーメンなど行事食が多彩で、利用者の食の楽しみを支えています。利用者は看護職員による週2回の健康チェックを受け、市内の病院への通院は職員が同行し、さらに訪問診療を受けることもできます。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年から「理念」という言葉ではなく、ミッションビジョンに変えて行っています。リビング等に掲示しそれを踏まえた取り組み、ケアを行っています。	今年理念と方針を職員と共に見直し、新たにビジョンとミッションとして策定しました。職員は3カ月ごとに目標を定め、ビジョンの実現に向けて努力しています。目標への具体的な取組として、声掛け等の工夫で散歩につなげたり、食事前の手洗いにつなげるなど、成果が出ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではありませんが、公園等に散歩に行った際には挨拶を心掛けています。施設の行事に地域の方々来て下さる等交流する機会がふえつつあります。今年度もコロナウイルス感染予防の為機会がありませんでした。	近所にサービス付き高齢者向け住宅ができ、住民との交流が増えました。町内会に参加すると共に、散歩等ちょっとした外出時に挨拶をするなど、コロナ禍にあっても交流の継続に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やご家族、相談に来られた方々を通じ認知症の事を知ってもらえるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方、ご家族、行政の方に参加していただき意見交換、ご指導を頂きサービスの向上に活かしたいと思っています。今年度もコロナウイルス感染予防の為書面にての報告となっています。	今年度は市の指導もあり、書面による会議となっています。書面会議の参加者は地域行政の他、家族全員にも書面を送付しています。感染症予防の取組と、行事を写真で紹介し、事故防止などの事業所の現状を伝え、運営への意見を求めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは日頃らご指導頂いています。感染予防や災害時の対応について等随時連絡をもらっています。	今年度は感染症対策について、市の介護保険課と情報交換を活発に行っています。市からはPCR検査など感染対策への支援を受けています。防災課には洪水時の避難計画の策定について支援を受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員を設け年2回の研修、外部の研修へ参加し理解し防止に努めています。	身体拘束についての指針を定め、身体拘束適正化委員会を年2回、法人の福祉事業部全体で行っています。研修会も合同で行い、研修会参加者による伝達研修を行っています。他の事業所での事例を基に、グレーゾーンでの対応について会議で話し合い、どのような行為が拘束に当たるか職員間で共通認識を持つようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設の研修、外部の研修への参加等学ぶ機会を持ち防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設の研修では取り上げられる事が少なく、理解できていない事が多くあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込みや契約時に家族への意見・要望等を聞き説明・納得していただくようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族来訪は減りましたが、来訪された時に利用者様の状態をお伝えし、月1回、生活報告書にて状況報告しています。	毎月、利用者ごとに担当職員が生活報告書と事業所通信を家族に送付し、個別の生活状況を伝えていきます。また、運営推進会議の書面も送付し、家族から意見を表出しやすいようにしています。利用者と家族の意思疎通が図れるように、リモートでの面会を準備し、窓越しでの面会時には内線電話を活用するなど工夫しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常時、会議中に話しをする機会を設けています。	職員の意見は、日々の雑談の中から、ユニットごとに配置された計画作成者が把握しています。また、管理者は年1回個別面談を行い、意見を聞くと共に目標や改善点を伝えていきます。職員から、休憩室にソファを配置して欲しいとの要望があり、職場環境の改善につながりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の中での楽しみや向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修に参加出来る機会を設け、又資格助成制度を活用し職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道GH協会や江別GHあおいの会との連絡を取りネットワークづくりをしています。今年もコロナウイルス感染予防の為活動が出来ていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者との面談を行い、本人の状態や話を聞いています。また入居時に不安のないように、職員は本人の過ごし方を観察し何に戸惑っているのかを見極め話しやすい環境を作れるように関わっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、職員が家族がどのような生活を希望しているのか、安心してサービスを利用できるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時本人と家族の要望や困っている事を聞き、暫定プランに反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として教えていただく事もあり、一方的な介護にならないよう関係を築いていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に職員、家族が協力し本人を支えていける関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通っていた美容院等、馴染みの人々の来訪時の時間を大切にしています。今年もコロナウイルス感染予防の為時間を提供する事が出来なっています。	感染症の蔓延に伴い、今年度は電話や手紙でのやり取りを推進しました。知人や友人も高齢となり、交流を図るのが困難になってきていますが、昔の近所の人から電話が来ることもありましたが。リモートや窓越しでの面会など、感染防止に配慮した面会方法を工夫し、関係の維持に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士が同じテーブルで食事をしたり、体操やレクレーション等で利用者様同士が関わりを持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様やご家族様と会う機会がなく、そのような機会がありませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、その人らしさやこだわりを尊重しています。	利用者の思いや意向は、日々の生活の中から職員が汲み取り、送り時や食事の後片付けの時間など、ちょっとした時間を活用し職員間で共有し、利用者本位の対応ができるようにしています。得られた情報は支援記録に記録しています。	利用者の発する何気ない一言でも、記録に残すことで、新任者の利用者理解を助けたり、職員間での共通理解を深めることができます。今後は、必要な情報の記録について職員の負担にならない方法を検討し、実践につなげていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や習慣等を聞き、出来る限り維持した生活が送れるよう、ケアプランに活かし支援して行きます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活状態は介護支援記録に記録し、毎日の引継ぎや職員会議、ケアプランに反映させています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当者がモニタリングをし、計画作成担当者、管理者がチェックし3ヶ月に1度見直し、ご家族・職員から意見を聞きケアプランを作成しています。	利用者ごとに担当職員が毎月モニタリングを行い、計画作成者も出席する会議で実施状況を確認しています。プランは3か月に一度見直しを行い、家族には仮プランを提示し、意見や要望を求め、プランへ反映しています。また、身体状況が変わった場合は、医師と家族に相談の上、プランを変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録やアセスメント等を利用し、共有しながら見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応できるよう努力したいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、買い物等の外出が出来ませんでした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続してかかっています。利用者の状況や家族の希望などで、往診医に変更もあります。	入居前からの主治医に継続的に受診できるように支援しています。市内の医療機関には職員が受診に付き添い、日々のバイタル等の情報を医師に伝えています。本人が希望する場合は提携医療機関の訪問診療を受けることができます。利用者は週2回の非常勤の看護師の健康チェックを受けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での情報共有を看護師へ申し送り、利用者が適切な看護を受けられるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況やADL等の情報を病院に提供しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望と本人の意思を確認し、事業所で出来る事を行っていきたく思います。	重度化や看取りの方針を策定し、入居時に同意を得ています。開所以来、看取りの事例はありませんが、年1回看取りの施設内研修を行っています。利用者や家族の今の思いを年1回程度確認する準備をすすめ、今年度は家族の思いを確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員は参加できませんが、市消防所の普通救命講習会に参加予定です。今年は実施出来ていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災時避難訓練、地震想定シェイクアウト訓練を行っています。	火災の自主訓練を年2回、夜間想定で行っています。市の地震訓練に参加し、連携を確認しています。水害対策の策定と訓練を計画しており、公民館や法人の系列ホテルへの早期避難を検討しています。避難場所を家族に周知し、万が一の場合の安全確認がしやすいようにしています。自家発電機を設置し、食料も多めに備蓄しています。系列事業所の施設長はグループチャットで情報を共有し、非常事態に協力して対応できる体制になっています。	事業所は水害対策として、ハザードマップ上洪水の危険が少ない地域にある市内の系列ホテルへの早期避難を検討しています。実際の避難時におけるホテルとの連携の確認や、地域の協力、自動車での移動を想定した訓練の実施を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として接し、言葉使いに配慮している。その場の雰囲気合わせた対応をしています。	プライバシーの確保を事業所のビジョンにも掲げ、利用者の思いを尊重しています。毎月の会議でビジョンやミッションを確認し、職員で共有しています。職員の理解をすすめるため、認知症や虐待、身体拘束などの研修を研修委員が企画し、実施しています。研修に参加できない職員には、書面で伝達しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、思いや希望を聞けるよう関わるようにしています。簡単な自己決定が出来る様日々働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	おおよその日程は決まっているが、その人らしい時間を過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の日課として毎朝身だしなみを整えて頂いています。通院等の外出時にはおしゃれをして頂けるように声掛けしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日は難しいですが、調理や下ごしらえ等出来る範囲で一緒に準備や食事、片付けを行っています。	食事の準備など、利用者の希望や力量に合った手伝いをしてもらっています。食事のメニューは調理担当の職員が2週間分作成しています。利用者の状態に合わせ、刻み食などに対応しています。食の楽しみのために、行事食や食事の彩、盛り付けに工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量、食べられる量を把握しバランス浴提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けをしています。手伝いが必要な方にはスタッフが介助しています。全員ではありませんが、週1介訪問診療を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛け、排泄パターンや習慣を大事にした支援を心掛けています。	利用者ごとに排泄間隔を把握し、定期的に声掛けを行い、トイレでの自立排泄を支援しています。トイレでの排泄時に他の入居者の視線を考慮するなど、利用者の羞恥心に配慮しています。夜間は利用者ごとに適した衛生用品を使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、緩下剤の調整、適度な運動を行い、個々に応じた予防対策を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来る限り希望に添い、個々のタイミングで入浴が行えるよう支援しています。	週2回午後からの入浴を基本としていますが、利用者の意向を尊重し、入浴時間等、柔軟に対応しています。同性介助に対応し、利用者は職員との会話を楽しんでいます。一人での入浴に不安のある利用者は、職員がドア越しに見守り、安心して入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員はいつでも観覧する事が出来ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の希望を出来る限り行えるよう、日々支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも出かけられるようにし、見守りをしています。コロナ終息後はドライブや外食等出掛けたいと思っています。	近所の公園に散歩に行く等、日常的に外気に触れるようにしています。感染症の蔓延により外出できない時でも、職員発案により居間で玉入れ、輪投げでミニ運動会を行うなど、利用者のストレス発散に気を配っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを持参されている方は病院代の支払いや買い物をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望はありませんが、先方からかかってきた時には取り継ぎお話してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて利用者様と一緒に作成した貼り絵や花を飾っています。	季節感を感じられるように、季節ごとに居間の飾りを変えています。食事の後は手すりやテーブル、床などの消毒を行い、また、温度、湿度の管理や換気に気を付けています。利用者間の関係に配慮し、利用者それぞれが居心地よくなる様に、席を配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いに過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に家族と相談しながら、使い慣れた物や好みのものを置くようお願いしています。	居室のレイアウトは入居時に家族と一緒に考え、動線の確保など安全対策だけではなく、ベッドなどの馴染みの物を持ち込み、居室での暮らしが今までの延長線として捉えらえるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついていて、安全に歩けるよう配慮しています。トイレ、自室にネームプレートがかかっており迷わないよう配慮しています。		